



▲模擬店が並んだ会場

第23回つくし市開催

楽しかばい・みんなの祭り・つくし市

9月27日、つくしの里で「第23回つくし市」が開催され、約千人が訪れました。

会場では、焼き鳥や焼きそば、かき氷などの模擬店やフリーマーケット、田川中学校・大藪小学校・レオクラブのバザーなどが並び、ステージでは津軽三味線やフラダンス、大藪小学校などの演奏が行われ、訪れた人たちは秋の一日を楽しんでいました。

つくし市実行委員会の白石亮事務局長は、「毎年地域の人に来てもらい、盛り上げてもらっています。多くの人に障害者の生活や自立支援法のことを知ってもらい、交流がもてるようになってほしい」と話していました。

彦山川パーロン大会

8チーム80人が熱戦

9月27日、秋晴れの下、彦山川で8チーム80人が参加して「第1回パーロン大会」が開かれました。

この大会は、彦山川に親しみ、水質や河川環境に関心をもってもらうことを目的に有志で作る実行委員会が開催。

競技は、1艇に10人が乗り、2チームで競争。新橋橋の下流から橋げたを折り返す約300mのコースで2レースを行い、その合計タイムを競い合うというもの。

見事に操船するチームや、水上で右往左往するチームもあり、オールをこぐ参加者が苦笑いをする場面も見られました。

河川敷からは、家族や友人の「がんばれ」「まっすぐまっすぐ」など、熱い声援が飛び交っていました。



▲真剣な表情でオールをこぐ参加者



▲収益金を手渡す河端さん(左)

河端隆さんが収益金を寄付

捨てればゴミ、拾えば資源

10月1日、空き缶やペットボトルを拾ってリサイクルのボランティア活動をしている河端隆さん(71歳)が、市役所を訪れ、コールマイン・フェスティバルの運営資金として伊藤信勝市長に収益金197,911円を寄付しました。

平成9年の退職を機にボランティア活動を始め、今年で13年目。始めた当初は、一輪車を引いて道端などに落ちている空き缶を拾い集めていましたが、活動が知れ渡るにつれ「集まったから取りに来て」という協力者も現れ、今では集めた空き缶などを選別する作業が中心になっているとのこと。

河端さんは「何事も感謝の気持ちが大事。一日でも長く続けていけるようがんばりたい」と意気込みを語りました。

シュライアー教授が市長を訪問

自慢の教え子と再会

9月8日、コロラド大学のロバート・W・シュライアー教授が市立病院を見学し、伊藤信勝市長を表敬訪問しました。

同教授は米国科学アカデミーのメンバーに選ばれ、アメリカ内科医協会、米国腎臓学会、全米腎臓財団、国際腎臓学会の会長を歴任するなど世界的に有名な人物で、市立病院の中本雅彦副院長と成清武文腎臓内科医長の留学中の恩師。今回は国際学会出席のため来日。中本副院長らが開催した腎臓専門医のための講演会でも講演を行いました。

同教授は、「マサとタケは非常に優秀で、日本に戻り田川の医療に貢献していることを誇りに思います」と再会を喜んでいました。



▲再会を喜ぶシュライアー教授(後方)と中本副院長(前列右から2人目)、成清医長(前列右端)

秋の交通安全県民運動

交通事故ゼロを目指して

9月18日、秋の交通安全県民運動(9月21日～30日)を前に、無量寺保育園の園児や県立大学の学生・交通安全協会の会員など約120人が、情報センターから風治八幡宮までの約1.5キロにわたり街頭パレードを行いました。

出発式で田川警察署の花田利夫署長が「夕暮れ時と夜間歩行中・自転車乗用中の交通事故防止、すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用、飲酒運転の撲滅を図る」とあいさつ。その後、無量寺保育園の園児が「信号を守り、右と左をよく見て横断歩道を渡ります」と交通安全宣言を行い出発。参加者たちは、交通安全の啓発チラシやティッシュなどを配布しながら、交通事故防止を呼びかけました。



▲みんなで交通事故防止を呼びかける参加者

トップアスリート派遣指導事業

オリンピック選手の指導に感激

9月24日、金川小学校で6年生72人を対象に「トップアスリート派遣指導事業」が行われました。

この事業は、トップアスリートの指導を通し、運動に対する興味・関心やスポーツに親しもうとする態度を育成することを目的に開催。

講師は、杉本龍勇さん。バルセロナオリンピックで400mリレーのアンカーとして出場。現在は浜松大学の陸上部監督、Jリーグ清水エスパルスのフィジカルコーチを務めています。

走り方のフォームや基本姿勢を学んだ生徒たちは、来月の陸上記録会出場に意欲を燃やしていました。



▲オリンピック選手の杉本さん(中央)と記念撮影